

# きもの便り 冬号

【発行】美保姿きもの総合学院 【ホームページ】<http://www.miho-sugata.com/>

No.0001 もっと、きもののお話をしませんか。



## 「輝」 (き)

初春、初売り、初釜、初夢・・・

お正月には「初」に彩られる言葉や事象が、何とたくさんあることでしょう。

言葉だけでも清々しい気持ちになれるような…新しい一年のスタートです。

着物が日常着だった時代には「着衣始(きせはじめ)」とって日用品を新年に新調するように、新年にふさわしい着物を新調する習慣がありました。

現代において「洋服を新調する」ということは少々そぐわない感はありますが、新年という節目を意識して何かを新調するという事も、気持ちの切り替えになるかと思えます。

洋服に限らず、バッグでも靴でも小物でも…自分の中での「初〇〇〇」として、気分転換を楽しめるのも新年ならでは。

「着衣始(きせはじめ)」の時代を生きた女性たちが、新調した着物に袖を通して新年を過ごした“晴れやか”な思いも、現代に生きる私たちが新年に何か“新しいもの”を通して抱く新春の華やいだ思いも、何か通じているよう思えます。

何か特別なことがあるという確証がなくても、どこか光り輝く期待を持たせてくれる…「新しいもの」にはそんな力があるものです。

どうか新しい年が輝かしい一年になりますように・・・心からお祈りいたします。

## 「二十四節気」

(にじゅうしせつき)

春夏秋冬の四つの季節、さらにそれぞれを六つに分けた「二十四節気」。

四季の変化に富むこの国の豊かな自然の循環の中で、はるか遠い時代から先人たちはそれを季節の道しるべとして日々の営みを繰り返してきたことなのでしょう。

カレンダーがあり、正確な時刻を知るすべがあってもやはり、季節ごと「二十四節気」の一つ一つが、肌に触れるような温度感とともに、今も私たちの暮らしの中に息づいていることを実感しております・・・そろそろ平地にも雪の便りが訪れるという「大雪(たいせつ)」ですね。

私たちが当たり前のように包む「空気」、この時期特有の冷たい「冷氣」や「寒気」、それらは決して目で見ることはできないものです。

周囲の景色を見て、晩秋の冷たい風を肌で感じて、その冷たい風に舞い踊る落ち葉の音を聞いて・・・そんな「気配」で季節の移ろいを本当は誰もが敏感に感じ取っているものなのかもしれません。

12月の着物の柄として「雪輪」や「冬景色」更紗などの「異国模様」などがありますが、他の月に比べ花などの植物柄が少ないのも、やはり12月ならではの・・・でしょうか。

「二十四節気」は節分を前に一巡を終えますが、1年の終わりを意識しながら何となく「師走」に向けてざわつく思いにかられているのは、私だけでしょうか(微笑)。

文：堀内利子

出張着付けごあんない



振袖 8000円 留袖・訪問着 6000円  
出張費は500円から10kmごと  
※税別 ※お二人以上の場合は割引  
あります。

冬の着付け講座

帯結び・総仕上げ 3回  
受講時間：一回60分×3回  
受講料：7000円(税別・全3回)  
※日時場所は応相談  
持参いただくものきもの・帯・帯メ  
・帯揚・長襦袢・半襟その他着付け  
のための紐類と下着類  
お問い合わせ：0120-35-8035 もしく  
はお近くのお教室まで

